

関西地域フォーラム 資料

滋賀県琵琶湖環境部環境政策課

深田 富美男

琵琶湖の価値

①豊かな自然環境としての価値

満々と湛える水量(275億トン)

広い空間(我が国最大の湖沼

集水域に広がる里山)

②水源としての価値

近畿1,400万人の水道水源

工業用水、農業用水

琵琶湖の価値(続き)

③水産業の場としての価値

アユ苗(全国の約4割)、淡水真珠

④観光資源としての価値

60余力所の水浴場

4,000余万人の観光客

⑤学術研究の場としての価値

古い歴史(古代湖:59の固有種)

琵琶湖の環境問題 1

食糧確保の時代(1950年代)

干拓: 琵琶湖の1/10の面積が農地に(内湖)

農薬: BHC、DDT、PCP、有機水銀 など

→沿岸や河川で魚類の大量死

→琵琶湖沿岸から6kmの農家が

使用自粛運動

琵琶湖の環境問題 2

経済発展の時代(1960年代)

所得倍増と生活水準の向上

→工場立地(内陸工業県)

と公害問題(PCB汚染 など)

→公害関係法令の整備と住民運動

有害物質使用工場の設置許可

琵琶湖の環境問題 3

豊かな生活の時代(1970年代以降)

富栄養化問題

(赤潮、アオコの発生、異臭味問題 など)

人間生活: 80万人→130万人

→下水道、合併浄化槽 など

経済活動: 排水規制

生活様式: 合成洗剤、水洗化

生産方式: 化学肥料、農薬、化学物質

→石けん使用推進運動、富栄養化防止条例

琵琶湖の環境問題 4

環境自治の時代(1990年代以降)

ダイオキシン、環境ホルモン問題 など
すべての関係者が議論し、決めて、行動

→環境基本条例

- ・共生(自然との共生)
- ・循環(くらしと社会のグリーン化)
- ・自治(県民参加による環境づくり)
- ・国際協力(地球環境への貢献)

→リスクコミュニケーション